

授業科目

公的扶助論I

担当教員名 武井 恒美	対象学年	3	対象学科	社会
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	◎	◎	○

授業の概要

- 1.国民の生活と健康を最終的に保障する公的扶助について総合的に把握し、国の社会保障制度の中でその果たす役割を理解する。
- 2.日本や諸外国における公的扶助制度について体系的に把握し、全体像について理解する。
- 3.欧米及び日本の公的扶助についてその理念及び制度の歴史的展開について理解を深める。
- 4.生活保護制度の具体的仕組みの理論と実際について理解を深め、併せて対象者の人権に即した権利性の確保と義務履行の在り方について考える。
- 5.さまざまな低所得者支援について理解をし、貧困問題と関連する福祉的な課題について関心を持ち、社会福祉士としての判断力の土台を形成する。

授業の目的

わが国の公的扶助制度は、日本国憲法第25条に規定する生存権の保障を具現化する生活保護制度として創設され、社会保障制度の最後の砦としてのセーフティネット機能を有している。この機能を理解するため公的扶助制度の歴史を学び、制度の内容及び現代社会における意義について学ぶ。

学習目標

- 1.公的扶助の概念と現代の貧困・低所得問題について理解し、社会を構成する諸要素への関心を育む。
- 2.英国と日本を中心に公的扶助制度の歴史的推移を学び、貧困の社会的要因について理解を深め、併せて現在の生活保護に至るまでの形成過程を明らかにする。
- 3.生活保護制度の原理・原則と運用について理解し、専門的な思考と判断力の基礎を作る。
- 4.生活保護の最低生活保障水準について実践的に理解し問題解決能力を養う
- 5.生活保護の運営実施体制と生活保護の動向について学び、福祉増進のための課題をとらえる意欲を高める。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	オリエンテーション・公的扶助の概念とその意義	講義	
2	現代の貧困・低所得者問題とその社会情勢・福祉ニーズ	講義	
3	公的扶助の歴史と考え方 諸外国における理念と歴史的展開（1）	講義	
4	公的扶助の歴史と考え方 諸外国における理念と歴史的展開（2）	講義	
5	公的扶助の歴史と考え方 日本における理念と歴史的展開（1）	講義	
6	公的扶助の歴史と考え方 日本における理念と歴史的展開（2）	講義	
7	貧困・低所得者への対策	講義	
8	生活保護制度の目的と原理・原則	講義	
9	保護の種類と内容及び方法	講義	
10	保護施設の概要、被保護者の権利及び義務	講義	
11	生活保護の財政、財源	講義	
12	生活保護基準の考え方と最低生活保障水準の実際（1）	講義	
13	生活保護基準の考え方と最低生活保障水準の実際（2）	講義	
14	生活保護の動向（1）	講義	
15	生活保護の動向（2）	講義	

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	新・社会福祉士養成講座「低所得者に対する支援と生活保護制度」	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2016年	2,200円＋税	第4版

参考書	生活保護手帳	厚生労働省保護課	中央法規		2,500円 +税	最新版
	厚生指標 増刊「国民の福祉と介護の 動向」	厚生統計協会	厚生統計協会		2,100円 +税	最新版
	社会保障の手引き		中央法規		2,800円 +税	最新版
その他の資料	現代の貧困 ワーキングプア/ホームレ ス/生活保護	岩田 正美	筑摩書房 (ちくま 新書659)	2007 年	720円+ 税	

評価方法

定期試験

履修上の留意点

オフィスアワー・連絡先

授業に関する質問などは、メールアドレスまでご連絡ください
takei@nuhw.ac.jp